

第二次主要施設10か年維持更新計画に基づいた改築工事

都立府中高等学校改築・改修工事



本工事は、東京都が進める老朽化した校舎等の整備事業で基本設計からグラウンド整備工事まで約9年間のプロジェクトであり、新校舎は原位置での建替えとなる改築で既存体育館棟は内外装を全体的に撤去・新設するスケルトン改修であった。

校舎棟の構成として、南側に普通教室、北側に特別教室を配置しつつ、中央には図書室や視聴覚室、主縦動線である大階段を配置し吹抜空間とともにアクティブラーニングに特化した校舎となっている。また、展示や対話及び生徒が教員に気軽に相談できるスペースを各所に設け、生徒の多様な活動・学習が生まれるよう設計され、敷地内には府中銘木百選に選定されているアカマツ林をはじめ緑豊かな自然環境を持ち、既存樹木を活かした計画となっている。



工事概要

工事名 都立府中高等学校(4)改築及び改修工事
 工事場所 東京都府中市栄町3-3-1
 工期 令和4年6月16日～令和6年11月1日
 発注者 東京都
 設計監理 株式会社松田平田設計
 工事内容 改築校舎棟：RC造地上3階(一部鉄骨) 延床面積 9,469.22m²
 改修体育館棟：RC造地上2階(一部鉄骨) 延床面積 3,055.17m²
 その他構築物：増築階段棟・増築プール濾過
 機械室EV棟・外部倉庫



担当者の声

仮囲いを境に隣接する仮設校舎で日々の授業や行事を継続しながらの施工であったため、学校側と行事等の協議を頻繁に実施し、作業内容を調整することで、騒音・振動・粉塵による生徒への心理的負担の軽減に努めました。

また、現場の規模に対し搬出入口ゲートが6mの1ヶ所のみで、メインの工事エリアまで140m程奥にあり、途中には学校関係車両の出入口もあったため、工事車両の調整・誘導には毎日の安全確認に重きを置いた所でした。

構造的には、各所内部柱型や内外壁面の一部がコンクリート打放し仕上であったり、プレストレスト造の大梁、渡り廊下や諸室の一部が鉄骨造の複合構造になっているため、コンクリートの打設計画や納まりの検討、品質管理を徹底して施工しました。

改修工事となる体育館棟は、既存の内外部のモルタル下地にアスベストが含有されていたため、仮設校舎や近隣への飛散が無いよう養生や測定を徹底し、粉塵対策を行いました。

完全週休二日制モデル現場であり、非常にタイトな工期の現場でしたが、引渡し後に新校舎で生徒達が楽しそうに学校生活を過ごしているのを見た時、いつも以上に感慨深いものがありました。



東京本店 建築部

[上段] 渋谷 武 (所長) 菊田康則 富田将史 野田忠志

[下段] 岩城康二 畔上 薫 山崎凱斗 加賀屋 綾香